

# 喜田貞吉先生のこと

## 須藤松雄

歴史学者、喜田貞吉先生の講演をきいたことがあります。昭和十年ごろだったと思います。

京城大学予科の日本史の先生だった令息のお家にお見えになった父上に講演をお願いしたのでしょう。わたくしも、その学校の教師でした。

演題は忘れませんでした。

全校の教師、学生数百人の視線を浴びて壇に上がった先生は、小さなおじいさんで、ニコニコしていらつしやいます。令息とあまりにもそっくりなので、学生たちはクスクス笑っていました。

おじいさんといっても、先生は昭和十四年、六十九でなくなられたのですから、昭和十年なら、まだ六十五くらいです。今の

わたくしなどより、はるかにお若かったわけです。若い人には、五十、六十の人が、はつきり年寄りに見えます。わたくしも二十台の青年でしたから喜田先生がおじいさんに見えました（だから二十歳の学生さんが、八十のわたくしを見たら、何かこの世ならぬ年寄りに見えるにちがいありません。一つの自然現象です）。

さて、その喜田先生が「天孫ニニギの尊が高天原から雲に乗って、フワフワと高千穂の峯に降りたなどと今ごろだれが信じるのですか」（だいたい、こういう言葉でした）とおっしゃったとき、ほんとうに驚きました。

一つの時代の感じは、やはりその時代に生きた者でないといわかりません。昭和十年

文芸学会だより  
はじめての講演会を終えて

文芸学会は、学生の熱心な発表・討議、講演会とたいへん内容の充実した会として盛会を納め、卒業生も毎年二、三十名の参加があります。学校を離れた私どもに、日常の生活から離れて文学に浸るひとときを与えられておりますことをたいへん喜んでおります。

会終了後の懇親会を楽しみに参加する人もあり、こうした思いを発展させるものとして、昭和六十三年十月二日（日）、卒業生を中心とした文芸学会を開きました。文芸科の荒牧富美江先生、古山登先生をはじめ助手の方々のご協力により、第一回は、横浜の神奈川近代文学館に於いて、講演会を行いました。講師には、文芸科創立当時から在職され、現在品川区にある国文学研究



という、あの不幸な、長い日中戦争の始まる二年前で、何とも言えない重苦しい険悪な圧力が急激に強まった頃です（だから昭和十二年四月——開戦の三か月前——「暗夜行路」が九年ぶりで発表され、大山の暁の大景を読んだとき、ここにばかり日が照らしているように感じました。それほど暗い、いやな世の中でした）。

天皇は神であり、天孫降臨の神話は、神聖な事実であると信じ、そのように教えることを強制されていた、そういう時代です。その時代に喜田先生が「……フワフワと」(こういう副詞をお使いになったことを数十年後の今もよくおぼえています)雲に乗って降りたなどと今ごろ誰が信じるかというようなことを壇上から言われたのですから驚きました。こんなことを言えば、たちまち免職になり、警察、憲兵あたりから苛められることは当時の常識です。先生の言葉をきいて、これは大変なことになったと驚いたのですが、ところが何ということもありませんでした(やかましいことをいいたがる軍人も教師もその席にいたのですが)。今考えても不思議です。時勢を思うと、奇蹟

です。

ニコニコして、すこしも肩肘張らず、声も強めないでケロッと言つてしまわれた老学者の風格に毒氣を抜かれたのだらうと思います。わたくしどもが赤ん坊だった明治四十何年、壮年の先生は南北朝並立論を発表して問題にされ職を辞した方です(これはあとになってから知ったことです。南北朝と言つてはならん、吉野朝と言えと、わたくしどもも強制されたものです)。その先生が、今の時勢にこんなこと言つたらどんなことになるか、おわかりになつていないはずがありません。それをあのように飄飄とした態度で言つてのけられた。全く及びがたい境地です。臆病なわたくしなら、第一そんなことを言いません。万一言うにしても悲壮な声や態度でしか言えないでしょう。

喜田先生に接したのは、右の講演のときだけですが、数十年後のこのごろ、くりかえし、くりかえし先生の風貌を思い出しています。ああいう時代に、こういう方がおられたのだということを書いておきたくて書きました。

資料館においでの方松野陽一先生(写真右)をお迎えしました。参加した六十数名の卒業生は、わざわざおいでくださいました懐かしい先生方を囲んで、和やかに楽しい秋の一日を過ごしました。

卒業して遠方に住む友人と疎遠になつていたり、育児の最中にあつて自分の時間が思うように持てない方もあると思います。しかし、こうした会が継続していくことによつて、いつか参加する機会が開かれていると思ひます。皆様の周りで、まだ文芸学会に入会していない方にも、どうぞお声をおけて下さい。ご協力願ひます。この会が末永く続くことを願ひます。

(昭和四十六年卒業 五味(山澤) 順子)

十月二日 (土) 午前十一時〜午後一時

司会 小倉 美和

委員挨拶 五味 順子

(講演)

「みちのくからもどつて」

東北大学教授 松野 陽一先生

(懇親会) 講演会終了後引き続き、簡単な

昼食をとりながら懇談。